

## 令和5年度千葉県公立高等学校入学者選抜に関する協議会（第3回）【概要】

日 時：令和5年11月13日（月）午前9時30分から午前11時30分まで  
会 場：ホテルプラザ菜の花「あやめ」

### 1 出席委員（敬称略・名簿順）

佐藤 智司、谷口 和巳、吉野 毅、横瀬 正史、武富 恒徳、日根野 達也、三浦 明久、  
酒井 昌史、佐久間 勝彦、粕谷 哲也（副会長）、石川 和之（会長）、鶴岡 克彦、  
菊池 清美、國見 亜姫

### 2 次第

(1) 開会のことば

(2) 教育委員会挨拶

・委員紹介

(3) 報告

令和5年度千葉県公立高等学校入学者選抜に関する協議会（第2回）の概要について

(4) 協議

ア 令和7年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程案について

イ 現行の千葉県公立高等学校入学者選抜の課題について

(ア) 調査書について

(イ) 2段階の選抜について

(ウ) 学力検査について

ウ 入試改善を受けて実施される令和6年度選抜について

エ その他

(5) 閉会のことば

### 3 報告に対する意見・要望等

令和5年度千葉県公立高等学校入学者選抜に関する協議会（第2回）の概要について

### 4 協議内容

(1) 令和7年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程案について

- 今年度の入試日程（2月20日、21日）は少し遅く感じる。私立高校の入試日程（1月17日）と一か月以上離れているため受検生も不安に感じるのではないかと。もう少し早めてほしいが、日程案の中ではA案、B案が良い。
- 中学校としては、検査前の健康確認を重視したいので本検査前日は休業日にしてほしい。

- 令和5年度選抜では、本検査から発表まで6課業日であったが、採点ミスをなくすために7日になった。このことで二次募集の発表からの期間が短くなり、制服の採寸等の準備期間に余裕がない。二次募集で合格した生徒たちへのフォローも、中学校卒業式後に行う必要がある。A案、B案、A'案、B'案の中から決めることが考えられる。
- 中学校の先生方を対象とした入学者選抜終了後の公立入試に関するアンケートでは、日程に関する意見が一番多い。本検査の前日が課業日であるのでどの案でもよい。
- 昨年は新型コロナウイルス感染症の影響があり、今年度の追検査、特例検査がどうなるか非常に気になっていた。
- 新型コロナウイルス感染症はかなり落ち着いたが、インフルエンザの罹患数が増え、対応している学校が多くある。追検査の受付日がどこに入るかについて、B案だけが21日からと早いため時間的な余裕がない点が気になる。
- 子供たちや、教職員がゆとりをもって準備できる日程がよい。また、本検査日を早期に実施することが望ましい。追検査の申込についても、体調不良の状態での追検査の決定は大変であるため、ゆとりをもってできる日程を考えてほしい。
- 子供たちや保護者の気持ちを最優先に考えると、試験前後も大事である。本試験前日が課業日は絶対条件だと思う。また本検査終了後、しっかり話し合う時間が必要であり、志願変更なども余裕をもって相談できる日程を望んでいる。A案、B案の方が時間的余裕をもつことができると感じる。
- A案、B案で良いと思うが、3月7日（金）の二次募集受付日は卒業式とバッティングする学校が多いのではないかと。
- 追検査に関しては、本検査でインフルエンザであったとしても、長期間寝込むことはないと思われるので、本検査の後、追検査の受付をすぐ始めても問題ないと感じる。
- A案が良い。日付で決めるより、曜日で決める方がよい。試験前日が、火曜日又は水曜日と決めた方が、統一性があると思われる。
- 本検査後に、採点処理のため1日又は2日間が設定されている。追検査後の場合、A案は1日、B案は2日間となり、日数で考えるとA案の方に公平性があると思われる。
- 受検者の心情となると、発表の日程に関して、中学校の卒業式等々の日程も関係してくると思われる。A案、B案、A'案、B'案は、この点で問題ないと思っている。
- 採点業務、選抜業務を間違いなく実施するには、試験後の日程に余裕をもつ必要がある。このように考えると、A案かB案ということになる。
- 配付資料13ページの業務比較表に書かれていない内容についても考慮する必要がある。高校では、年度末に担任が卒業・進級に向けた生徒指導や保護者面談を行っている。選抜業務と並行して、生徒や保護者面談、卒業式の準備、定期考査の準備といった業務を行っている学校が多い。このような負担を考えると時間的な余裕がほしいので、早めに実施する方が良いと感じる。
- 受検生のことを考えれば、二次募集の発表も早い方が良い。入学許可候補者の保護者か

ら、制服を採寸する時間が短いと聞いている。3月中旬には、二次発表まで済ましたいと考えている。B案が良い。

- 高校入試選抜の一本化実施の3、4年前から、保護者、生徒、各学校は、選抜を2回行う方が良いと言っていた。一方で、公立高校、中学校、私立高校の校長は一本化すべきだということから一本化した。2月下旬に選抜を決定したのは県教委である。
- 2月下旬に検査日を設定したのは、東京都、埼玉県、神奈川県が一本化して2月下旬に検査を実施しているからだ認識をしている。東京都は、千葉県の高校選抜実施日より遅く実施しているが、年度末の業務をきちんとなしている。
- 採点業務を授業の合間に実施していれば、採点ミスは当然起こる。私立は授業をせず集中して採点を行っている。
- 私立の試験日程が早いとあるが、高校3年生の多くは9月には進学先が決まっている。2月下旬に国立大学の合格が決まるが、その間、進学先が決まっても数か月はきちんと授業を行っている。これは公立も私立高校も同じだと思う。
- 県教育委員会が一本化の際に2月下旬と設定したのだから、A案、B案とも2月下旬ではなく、これを選ぶのは違うと思う。
- 私立高校と公立高校を併願受験する生徒が多いため、私立高校の受験日から公立高校の受検日まで余裕があった方がいいと思うので、A案からC案はどれも可能である。私立高校の受検科目数が3教科に対して公立高校は5教科であり、私立と公立は試験の出題傾向も違うので、その間の日数が長ければ、公立高校受検にスイッチを切り換えて、もう一度受検対策ができるので問題はない。ただ、本検査前後に課業日があることや、二次検査の後に、終業式までなるべく余裕のあるA案、またはB案が良いのではないかと。

## (2) 現行の千葉県公立高等学校入学者選抜の課題について

### ア 調査書について

- 調査書については検討が必要だと思う。
- 効率化という視点も入れて欲しい。Web化も一つの方法であり、一元的に確認できるような仕組みについても今後検討していくことになるかと思う。
- 負担を減らし、間違いもなくすることについては、この先、長期にわたって検討していく必要がある。
- 子供たちに不公平にならない調査書でないといけない。中学校教員は何とか合格させたので一生懸命調査書を作るが、学校間格差があったり、記載の内容の違いがあったり、格差があるならば、その格差をなくしていくという感覚をもつ必要があると思う。
- 小さな中学校では、調査書を先生がすごく丁寧に事細かく書かれ、勉強以外のボランティア等についても多く書く。人数が少ないため調査書等に書かれる実行委員長やリーダーになる機会も必ずある。しかし、大きな学校では生徒数が多く、全員がリーダー等を経験することはできない。ここはきちんと公平性をもってやった方が良いと感じる。

## イ 2段階の選抜について

- 学校裁量の拡大等については重要である。今後、この制度を活用して高校の魅力を発信できるよう検討したい。
- 2段階の選抜を実施している高校が少ないので、中学生や指導する職員が理解していないのが実態だと思う。
- 実施校が少ないのは、それだけ制度がわかりにくく、高校が取り入れにくいのではないか。
- 理解している人が少ないという状況は好ましくない。精査する必要がある。
- 特色のある学校づくりという面から、制度を拡大するのは大事だと思う。
- 大学では総合型選抜において、全国から学生を集めるために色々な奨学金を設定している事例もある。中学生に知ってもらえるような特色を県立高校も作っていく必要がある。

## ウ 学力検査における国語の聞き取り検査について

- その時代で求められる学力観も変わり、学力検査の問題傾向も、それに伴い変わっていく。求められる学力観によって少しずつ変遷し、より良いものにしていくことが大切である。国語に限らず、他の教科であっても、継続して検討していくことが大切である。
- 国語は、受検者が自己採点した点数と、情報開示した際に示される点数とに大きな差が出ている。国語の採点について、高校によって随分裁量があると思う。同じ答え方をしても、正誤に学校差が見られて、自己採点によって手応えが感じにくいところがある。
- 他県で聞き取り検査の廃止の事例等もあるが、千葉県の事務局が今後どのように考えているかが一番大事で、提案を出してもらった方が判断しやすい。
- 中学校の現場的には、なくてもいいのではとの意見がある。
- 聞き取り問題の部分がどのように採点されているのか見えないので、実質的には全国的にやられていない検査を維持する必要があるのかは精査してほしい。
- 試験も効率的な方が良い。リスニングテスト時の機器の状況もあり、切れるものは切っていくような発想で入試は変わって良いと思う。
- 聞き取り検査の正答率と聞き取り検査以外の正答率について、平成28年以降、得点の正答率に差が出てきている。平成27年は42.4%であったが、次の年には78.1%となった。それ以降、聞き取り検査の点数の比重は合計点に対して高いと思う。聞き取り検査をがんばっておけば、点数が高くなると分析される方もいると思う。こうした部分も含めてその問題の適正化について、今後も検討していく必要がある。
- 今日的な課題でSNS等が広がっている世の中で、子供たちは、自分の中だけで見て判断することが多くなっていると思う。話すことであったり、聞くことであったり、そういった力が少しずつ衰えていってしまっているのではないか。コミュニケーション能力をしっかりと育むためには、この「話すこと・聞くこと」が重要であると思う。とはいえ、

今後予測できない将来、自分で切り拓いていく力をつけていく必要がある。配付資料16ページの一番下にあるように、自分の言葉で表現する力に課題がある。そうした能力を引き出す検査を別にできるのであれば、変更も可能であると思う。

- 基本的に小学校5年生、中学2年生の全国学力テストで行っている問題は、学習到達度調査(PISA)を踏まえており、世界的にも、日本としても求められている子供たちの学力と認識している。それと同じような質の出題をすればいいと思う。
- 英語と違い、国語なので普段から話をしたり聞いたり、聞き慣れていると思う。言葉の意味や内容を読む力を重視する方が良いと感じる。

### (3) 入試改善を受けて実施される令和6年度選抜について

- 意見なし

### (4) その他

- 協議会での協議内容に入試日程が必ず取り上げられ、毎年同じ議論を繰り返している。高等学校の入試日程も県立中学校と同じように2月21日に固定してしまえば、この議論はいらなくなるのではないか。検査日の前後の日程等と合わせて、特定の日程にすることも考えられるのではないか。
- 日付を固定することが難しければ、曜日を固定するといった案もある。